

大分県公民館連合会



ひろば

第22号

編集・発行

大分県公民館連合会

大分市府内町3-10-1

電話 097(506)5528

平成20年2月発行



竹田市久住中央公民館

〈地域住民との協働〉

竹田市久住町は市の北西部に位置し、久住山・大船山を北に控え、その南麓に広がる緑豊かな高原地帯を有し、人口は四、八〇〇人余りで面積の約半分は阿蘇くじゅう国立公園の指定を受けている。

久住中央公民館には、五〇〇人を収容できる大ホール（くじゅうサンホール）がある。平成十五年度から地域住民による単年度毎の実行委員会を組織して、ホール自主事業を運営することで、年に一度、本物の芸術作品（ミュージカル）を招致し鑑賞する土壌を培ってきた。しかし、各事業を運営していくには職員だけでは限界がある。そこで、本館では、地域住民をボランティアとして募集し、養成・登録して、主催事業への参画を図ることにより、公民館の利用促進と活性化に取り組んでいる。例えば、大ホールの運営ボランティアは「くじゅうサンホールスタッフ」として受付・音響・照明等、事業の裏方と呼ばれる部分を担当している。

また、恵まれた自然環境を活かして、「久住高原クロスカントリー大会」を実施している。夏季に開催することで、合宿等で久住を訪れる実業団や地元の選手と高校生・中学生の選手とが一緒に走ることができ、互いの競技力の向上を図ることができている。

これら地域住民の協力や参画とこれまで長年にわたり事業に携わってこられた関係者の皆さんの活動が評価され、今年度の優良公民館として文部科学大臣表彰を受賞することができたのだと思う。公民館は地域における生涯学習やまちづくりの拠点であることはまぎれもない事実である。今後も活動によって地域のさまざまな課題を解決し、住民が生きがいと誇りをもてる地域づくりの中核施設としての機能を果たしていきたいと思う。また、住民一人ひとりが、さまざまな場面で公民館とのかかわりを持つことにより、一層魅力的な公民館となるように取り組んでいきたいと思う。

これからの公民館に期待すること

大分県公民館連合会 会長 時枝正昭



民 主義の基盤づくりをめぐり、公民館が誕生し、既に六十年余りが経過しました。この間、公民館は、住民にとって身近な学習の場、交流の場として生涯学習振興の中核的な役割を果たしてまいりました。その結果、人々の学習に対する意識が高まり、また、学習の内容も多様かつ高度なものとなっております。さて、平成十八年十二月に公布施行されました改正教育基本法においては、「生涯学習社会の実現」が基本理念として新たに規定されました。また、社会教育に関する規定については、個人の要望のみならず社会の要請にこたえて、国及び地方公共団体により奨励されなければならないとされています。加えて、今国会においては、社会教育法等が改正される予定です。

これからの公民館には、地域社会の教育力向上に向けて、今後なお一層地域社会に密着した活動、取組が必要となっております。とりわけ、講座等を通じた学習機会の提供や、その学習成果の地域社会への還元にとどまらず、関係機関・団体と連携協力をしつつ、地域社会の課題解決に向けた支援を積極的に行っていくことが求められています。そのためには、今一度これまでの公民館活動の在り方を見直すとともに、公民館関係者が常に創意工夫し、魅力ある公民館活動を展開することが必要です。

公民館主事としての「素心」



日田市桂林公民館 主事 濱田 宗則

日田市が地区公民館を公設民営化し、その後、指定管理者としてその運営を地域に委託して四年目が終わるところとしている。民間会社のサラリーマンから公民館主事として職に就いた直後は、社会教育のイロハさえも理解していなかった私も、経験と研鑽を積むことで、公民館の果たす役割の重要性と必要性を理解しつつある。

地域の方が集まる公民館。そこで様々なことを学び、様々な人と出会う。それは利用者だけの「特権」ではなく、公民館主事自身にも言える「職権」であると思う。仕事を通じて地域の方とふれあうことで、人間として最も大切な部分である互助精神、助け合いの心を学ぶことができる。

「第三十回全国公民館研究集会inとちぎ」に参加して

佐伯市教育委員会生涯学習課 社会教育主事 石井 睦基

第三十回全国公民館研究集会が昨年十月十一日～十二日に栃木県宇都宮市で開催され、全国から一、七〇〇名が集まった。私は、第十分科会「今日的課題と公民館」で、「公民館での大分発「協育」ネットワークづくり」について発表した。

発表の中で、「教育の協働」のシステムづくりとしては評価をいただいた。しかし、そこで求められたものは、その「協育」ネットワークを活かした活動の具現化であり、そのために公民館職員が工夫した手法を問われた。そこは、これまで公民館職員に任せていた。しかし「協育」ネットワークが有効に機能するためには、地域のコーディネーターとしての公民館職員に「協育」や「協働」についての知識、地域の現状分析、会議から活動へと導く技術等が求められる。全国の情報の中には、職員の資質向上のため、ワークショップやプレゼンテーション、討論の手法や技能等の研修を積極的に進めているという地域もあった。

これからの佐伯市における「協育」ネットワークの具現化をはかるために、公民館職員の意識改革を求めただけでなく、職員間のネットワークを強化し、計画的な研修の中で技術と理論を身につけることの必要性を強く感じた大会となった。



別府市教育庁生涯学習課 武田 謙治



顔写真に代えて… 一尾 和史氏筆 (別府市復興公民館館長)

福岡市青葉公民館及び佐世保市西地区生涯学習推進会が「青少年の健全育成と学社融合を推進する公民館活動のあり方」をテーマに発表した第二分科会に参加した。いずれの発表も各地域で青少年の健全育成に関係する団体が行う個々の取組の紹介であり、その取組は課題解決に向け、どれも有用であると思われたが、残念ながら館(職員)の実践発表とは言い難いものであった。館としての役割は各団体事業及び館使用等の日程調整程度であり、各事業の企画・運営段階における館の関わりや主体的な取組は見えないままであった。

関係する各県及び市町村の担当者等においては、発表内容を十分に検討・吟味したものでなければ、参加者の期待に応える分科会とすることが難しいことを改めて認識した。全体会では、長崎ランタンフェスティバルを同市を代表する一大イベントにまでした経緯等について、林敏幸実行委員会幹事長が具体的な事例を交えて講演した。聴講者が公民館職員であることにも配慮しつつ、民間と行政が共に取り組む際の心持ち等についても話された。

「途中が大変であるからこそ面白いものができる。苦労がなければ真にいいものはできない。」 今後、新規事業の企画等に取り組んでいく私たち関係者にとって、力強く感じられるとともに大変励みとなる講演であった。

第五十八回 九州地区公民館研究大会に参加して

参加者の声 津久見市教育委員会生涯学習課 山下 俊雄



昨年度の人事異動で、八年ぶりに生涯学習課へ配属された。そして一年余り、最近の生涯学習・社会教育行政を取り巻く環境が確実に変わってきていることに戸惑いを感じている。そうした中、九州地区公民館研究大会に参加する機会を得た。大会初日は、八つの分科会に分かれ、実践発表と討議が行われた。私が参加したのは第五分科会「地域づくり」で、テーマは「地域コミュニティの活性化をめざす公民館活動の在り方を考える」であった。事例発表では、活動内容、評価・成果そして課題などについて報告があり、そして、意見交換では、こうした活動を行っていくうえで課題となっている点についてなど、熱心に論議が行われた。

二日目は、大会テーマである「社会の変化に対応する公民館活動の新たな展開」に沿って、アトラクション「中尾獅子浮立と唐子踊」と「長崎ランタンフェスティバル」が教えてくれるもの」と題した記念講演があり、今なお、色濃く残る異国情緒たっぷりの長崎の一端を垣間見る思いがした。

この大会に参加して、参加者の皆さんの情熱、またそれぞれの想いに感動すると同時に、これからの公民館のあり方、その活動について、あらためて考えるよい機会となった。

公民館関係者 1,800人が参加

アトラクション 中尾獅子浮立と唐子踊 (長崎市指定無形民俗文化財)



第7分科会の様子

発表者からの声

「今までの事業を見直すいい機会になり、次へのステップになった。」「発表を機に皆の地域づくりへの思いが高まり、県外の公民館との交流ができたことは大きな収穫です。」

平成十九年八月三十日(木)～三十一日(金)、九州地区公民館研究大会が長崎市にて開催された。大会一日目は、八分科会で研究討議、二日目は、全体会が行われた。大分県からは、第一分科会「公民館における職業教育(シンポジウム)」のパネリストとして、(財)大分県総合雇用推進協会ジョブカフェおおいた事業推進室 後藤三マネージャーが、第七分科会「自治公民館部会」の発表者として大分県大分市川添校区公民館 赤峯友子主事が、実践報告を行った。大会には大分県下から約六十名が参加し、熱心な論議に加わった。

大分県公民館長・主事研修会

●六月十四～十五日
佐賀大学文化教育学部の上野景三教授による講演「子どもも育つ、地域のネットワーク」公民館が、今できること」や、広島県廿日市市阿品公民館をはじめとした県内外からの「地域との協働による公民館事業」についての実践発表をもとに、「協育」ネットワークのキーステーションとして公民館ができることに、研究について研修を行う



大分県公民館新任職員研修会

●六月十九日
「公民館のQ&A」の講義や、公民館職員の事例発表をもとに研究協議を行うとともに、大分県レクリエーション協会の指導により、アイスブレーキングの手法の体験等を行った。

参加者の声



中津市小楠公民館 長末三ハル
元気倍增、不安微増の研修会参加
四月から公民館に勤務し、集う人々、特に高齢者の飽くなき向上心、疲れを知らぬ強靱な体、みなぎるパワーに圧倒される毎日を通じてきた。

新任職員研修会に参加し、公民館の役割として、「つくる」ことの大切さを改めて考えさせられた。
作品を「つくる」ことを通じて、輝き続ける自分を「つくる」場としての公民館の役割を充実させたい。

加えて、利用する団体同士の横の連携、世代を超えた人と人とのつながり、それらをつくる。公民館も重要である。
さらに、地域を「つくる」核としての公民館の存在も大きくなっていく。そのため、自らがつながりを「つくる」ことから始めた。
「行く道は険し、されど楽し」でもある。

杵築市山香中央公民館 江藤 朋子



事前に資料を渡されていたにもかかわらず、ほとんどの準備もせず当日を迎えてしまった。こんな私の発表はもちろん支離滅裂であつたが、他の二人の発表者の方々のお話しはすばらしかった。
公民館職員は、地域でどのような役割を果たすべきか。今まで私は、そのことについて「自分には荷が重い」とあまり深く考えてこなかった。だが、他の市町村の公民館の実情や事業の展開の仕方などを聴くことができ、自分も地域の橋渡し役となれるのかな、と感じた。
道のりはまだ遠いが...

臼杵市臼杵中央公民館 高畑 重子



大分県公民館新任職員研修会に参加して公民館の果たす役割が、より明確になった。行事を行うとき、地域のボランティアさん、子ども育成会さん、婦人会さん等たくさんの人々の協力があつて、よい成果が生み出せていくのだということ。みんなが協力することで仲間意識や連帯感、世代間のつながりができていることも学んだ。地域の人を知ること、頼ることの真の意味を分かつとも、いろいろな人とのつながりが大切だと気づき、新鮮な思いがした。また、各種活動を通して地域の人の仲間の仲間づくりの支援も仕事なのだと思えた。公民館に勤務して一年が経過しようとしている現在、「協育」「郷育」「響育」を目標に、地域の人の人と望ましい関係を広げながら、年間計画にできるだけ沿って、人づくりまわす力になっていきたい。



佐賀市上浦郷公民館 山本 哲司
今年度四月から公民館職員として生涯学習に携わるようになり、いろいろな人と出会う機会が多くなった。この出会いが、人々とのつながりこそが人を育てていくのではないかと感じた。今の子どもたちは習い事や家の中で遊ぶ機会が少なくなり、様々な知識や経験などを学ぶ場面が減少している。そのような状況の中でいかに交流の場を持ち、人と人とのつながりを作れる環境を提供できるかが今後の課題である。
これからもいろいろな人との出会いがあり、その方たちに協力をいただく中で、公民館が地域の拠点となるように取り組んでいきたい。

豊後大野市千歳公民館 武藤 昭文



平成十九年度の人事異動を受け、十年目で初めて教育委員会事務局の業務に携わるようになった。私は常に「職務に使命感を持つ」「市民の目線を考える」「奉仕の精神で職務を遂行する」という三つの柱を念頭に、これまで仕事をしてきた。公民館業務は、社会教育・社会体育共に、市民との協働で事業を行うため、地域・家庭・学校とのつながりが強いと感じている。また、公民館は合併後の千歳町における地域活性化の拠点であり、生涯学習社会を推進していく上で、やりがいのある職場だと私は思っている。そのような職務に携わる中、先の柱を念頭に、新たな試みに挑戦しつつ、創意工夫を行い、市民の声を取り入れた事業を展開していきたい。

九重町中央公民館 竹尾 孝一



公民館の仕事に就いてもうすぐ一年。いつも感じているのは、このことだ。
すぐ成果が見えてくる仕事をしてきた。ところが、公民館は逆

おまけに、手ごたえもあるのかわからないのかからない。少々混乱気味である。
ただ、「すぐに成果が見えるものではない」という言葉に甘えるのだけはやめたいと思う。
確信していることもある。住民を支援し、まちづくりの基盤体力づくりをしていく、とても大切な場であるということだ。この確信とじれったさにどう折り合いをつけるのか。
いつになったら答えが出るのだろうか。やっぱり、じれったい。
でも、おもしろい。

第三十七回九州ブロック社会教育研究大会

●十一月十五～十六日
「協育」を推進するための社会教育のあり方（学校、家庭、地域社会による「教育の協働」）「協育」をめざして」を大会テーマに、ピーコンプラザで開催された。
「公民館を中心とした「協育」の地域づくり」をテーマとした第一分科会では、二六〇人余りが参加した。
様々な体験学習活動を「きつかけ」として、世代間交流の促進を図った福岡県吉富町の報告、市民参画講座を企画し、地域で活躍するグループの発掘や活動の輪を広げ、学社融合を進めた熊本市の報告をもとに、新しい時代に対応した公民館による地域づくりや、地域のネットワークづくりの拠点としての公民館活動について討議が行われた。
また、「学校、家庭、地域社会の新しいつながりを求めて」「協育」ネットワークの構築」をテーマにシンポジウムが行われ、「住民と行政とが、協働で地域をどう元気にしていくかを真剣に考えなくてはならない」「協働のためには、対等な立場に立つこと、学びあうこと、共通の目標を持つこと」など、多くの提言等をいただいた。

地区公連発

県内各地区公連の活動紹介

今回は、中津地区（中津・豊後高田・宇佐）と別府地区（杵築・別府・姫島・国東・日出）です



**中津地区公民館連絡協議会
新しい時代に
ふさわしい
公民館づくり**

中津地区公民館連絡協議会は、中津市・宇佐市・豊後高田市の公民館・社会教育関係者等で組織されている。事務局を会長指定の公民館に置き、市町村合併後三市の一年交替となっている。地区内公民館相互の連携を密にし、職員・職員向上を図り、一致協力して単位公民館の振興発展に寄与すると共に、社会教育の向上に資することを目的として、種々の活動を行っている。
本年度の主な活動としては、生涯学習社会における公民館活動のあり方や当面する諸問題の解決に向け、研究・協議を行う中津地区公民館振興大会・第一回社会教育研究集会を七月二十五日、豊後高田市中央公民館で開催した。

この会では、平成十九年度・二十年度の研究推進テーマ「新しい時代にふさわしい公民館づくり」をメインテーマとして、サブテーマに「地域の課題と結びついた公民館活動のあり方」を設定した。これは、今後ますます多様な機能が求められる公民館に携わる者として、これからも継続的に地域に根付き、住民や各種団体、関係当局からの期待に応えることができる公民館づくりとは、どうあるべきかを探求するためである。
従って、現在実施、計画している公民館事業を振り返り、事業の中で地域課題（現在の課題）の解決に向けた取り組みがなされているものを取り上げ、その事業評価を行い、関係部局や各種団体の利用目的、実態等を確認するためのアンケート調査を三市すべての公民館に依頼していた。その調査結果報告は本年一月三十日の第二回社会教育研究集会で発表し、これからの公民館に求められる方向性として協議・研究を行った。その成果は、新しい時代の中で活性化化する公民館活動の実践につなげていきたい。



中津地区公民館連絡協議会
会長 橋本 和明

**別府地区公民館連合会
公民館を中心とした
学校支援事業の
推進について**

別府地区公民館連合会は、別府市、速見郡二町、杵築市、東国東郡四町一村で構成されていたが、合併により現在は、別府市、日出町、杵築市、国東市、姫島村の中央公民館で構成されている。
さて、当別公連では、年間二、三回の研修を実施している。
十九年度は、福岡県直方市への視察研修を実施した。直方市では平成十年より高齢者の生きがい対策の一つとして開設された「ふくおか高齢者大学」（直方教手地区高齢者大学）の事業として市内十四小学校でふれあい交流を実施してきたが十八年度で終了し、十九年度より事業計画・運営を「行政主導」から「民間主導」へと転換して、住民主体の学習活動や地域でのボランティア活動を推進し、学習の機会の充実・社会参加活動の促進を目的としたふれあい交流事業を実施している。
これは正に大分県が二十年度より始める「協育」ネットワークの参考になると思われたいところ。十一月二十七日に公開ふれあい交流会が開催されると言うので参加させて頂いた。



結果として、先生にとって、学校にとって、保護者（家庭）にとって、地域にとって「ふれあい交流事業」は子どもを育てるうえで必要な事業であり、また「地域のことは、地域で」取り組む必要性を感じた。
それぞれ参加した市町村の職員が、いかにして学校支援事業に取り組み行くかが課題である。

別府地区公民館連合会
会長 伊美 哲一

竹田市萩中央公民館 これからの公民館

ダンス教室などがあげられる。自主教室では三十余りの団体が自主学習を行っている。それぞれの教室・講座の活動は毎年「地域ふるさと祭り」で成果の発表が行われる。自治公民館とのつな



みんなとも田ち

萩中央公民館は、北に祖母山、南に久住山を望む自然豊かな大地に位置する。中央公民館は、一地区公民館と、二十六の自治会公民館と連携して、生涯学習活動を行っており、合併後も、これまで行ってきた特色ある事業は継続して行っている。中央公民館は、地域住民のニーズに応えながら学級・講座を開設している。平成十九年度の主なものは(高)幸齢者教室・家庭教育学級・男のクッキング・太極拳、



クッキング教室

がりは、四月「ソフトボール大会」、六月「バレーボール大会」、十月「体育祭」を開催し、地域の連帯意識を高めるとともに、五つの自治会公民館を「住みよい地域づくり」の拠点として活動の活性化を図っている。今、まさに激動の時代、それぞれの市町村は様々な課題を抱えている。公民館の目的には「実生活に即する教育」「学術及び文化に関する各種事業を行う」とある。公民館は、地域の抱える課題の解決に向けて、積極的に取り組んでこそ、人づくり、町づくりが出来るものと思う。また、青少年の社会性や豊かな人間性を育むためにも青少年の居場所として、さらには体験活動の場としての機能も期待される。今後は、新たなNPO、ボランティア活動を行いたいとする住民が集まる場所としての機能も併せもつ必要があるのではないだろうか。

竹田市萩中央公民館 本田 隆憲

由布市湯布院公民館 「集い、結び、学ぶ」

湯布院公民館の朝のロビーは、小さな子どもと母親が、思い思いの本を書架から出して読む姿や朝刊を読む人の姿で始まる。十時頃になると大正琴、書道の道具、カメラ等を抱えて、教室生、グループ生が、出合いの



ゆふっ子体験教室
中学生と一緒に

あいさつをしながら、それぞれの教室に入っていく。調理室から、男の料理教室や健康料理教室の美味しい匂いが流れて来ると正午を告げる庁舎からのチャイムが鳴る。午後からの教室生たちが入室し終わった頃、公民館前の由布院小学校から、子どもたちが、館内にある図書館へ駆け込んできるとゆふっ子体験教室が始まり、小学生と地域のボランティアでさらに賑わう。今



ゆふっ子体験教室
地域の趣味のグループのボランティア

一番旬の教室である。館内に「湯布院青少年ボランティアサポーターセンター」があり、腕利きのコーディネートを中心に「町の青少年のためなら」と多くのボランティアの地域力が集結している。夕方には、中学生、高校生のバンドの自主練習が始まる。また、ゆふっ子子ども神楽、ゆふっ子源流少年隊、ゆふっ子少年少女合唱隊も練習を重ね、地域の指導者の指導で元気をあけていく。夜間の公民館は、会議や成人者の趣味の会(カラオケ、ダンス、太極拳等)で、二二時の閉館まで活気付き人々が集う。土曜日は、公民館主催の地域子ども文化クラブが、年間を通して実施され、茶道・華道・絵画・ギターバンド(中学生)に親しんでいる。湯布院公民館は、年間約三万六千人の利用があり、地域の人々にとって、なくてはならない市民の拠点である。

由布市湯布院公民館 小野 直子

わがまち公民館

公民館の特色ある活動を紹介

日田市朝日公民館

ふるさとで国際交流!

命館アジア太平洋大学)の協力のもと実施している。留学生には一週間、お盆の時期に地区の受入家族宅に滞在し、日本の日常生活を体験してもらっている。農業を営んでいる家



盆踊りも体験

日田市朝日公民館 佐藤 聡臣

日田市朝日公民館では、青少年健全育成・成人学習・高齢者学習・人権学習等、様々な事業を行っているが、今回は「国際交流」事業に絞って紹介したい。朝日公民館主催国際交流事業「ホームステイinあさひ」は、平成十三年度よりAPU(立



歓迎会での記念撮影

日本人にとって最も大切な伝統行事である「お盆・正月」のひとつ、お盆の時期に早く受入れてくれる受入家族には感謝している。「郷に入つては郷に従え」。日本の家庭に入った以上、日本のしきたりを学び守ってもらおうにもつて、この時期である。今後とも交流の輪を広げていきたい。



正月用のディスプレイ

後によく立ち寄っている。他にも、子ども放課後クラブがあり、放課後の幼稚園児から小学校低学年の子どもが集まってとても賑やかである。子ども達が気軽に集まる公民館は、バイタリティ溢れるある人の存在なくしては語れない。ある人とは広津留由紀子さん。公民館の掃除のおばさんだけでなくその活動範囲は広い。地区の婦人会長でもある広津留さんは、掃除の仕事もしながら、公民館ロビーの季節ディスプレイ作成にはじまり、高齢者対象の熱年大学のカ

佐伯市鶴見地区公民館 気軽に集まれる 賑やかな公民館

県南の漁師町、鶴見の佐伯市鶴見地区公民館は、ちよつと変わっている。佐伯市ゆかりの「富永一朗海の漫画館」がある。そんなことから、図書館の一角には蔵書五千冊の漫画コーナーがあつて、小中学生が放課



夏休み宿題クラブ

ラオケ教室などの手伝いや、広い人脈を生かして利用者のあらゆる相談に対応している。また、広津留さんが子ども達に定期的な学習の場所を提供したいと発案した小学生対象の「夏休み宿題クラブ」では得意の美術を生かして自らが講師をつとめ、子ども達の国際理解を深めようと実施する「サマーキャンプ宿泊研修」では、朝早くから食事などの手伝いをしたり、学生や子ども達の世話で大忙しである。昨年九月から、文化協会の各団体からも公民館使用料を頂くようになったが、利用者のニーズに応じてみんなが気軽に立ち寄り、何か一つでも身に付けていってもらおうようにと考えている。そのためにもここで紹介した広津留さんのような人がのびのびと活動できるような環境を整えたいと思う。

佐伯市鶴見振興局 坂本 光裕



全国優良職員表彰

豊後大野市緒方公民館
金子 恵子 前館長

表彰は第58回九州地区公民館研究大会で行われました。おめでとうございます。

「県公連のホームページ」開設のお知らせ

県下の公民館の情報を「つなぐ・学ぶ・むすぶ」県公連のホームページを近日中に開設する予定です。県公連からの情報発信ツールとして充実させていきたいと思っております。

皆さまからの情報もお待ちしています。

第60回九州地区公民館研究大会大分大会について

九州各県の公民館関係者が一堂に会し、日頃の実践をもとに研究協議を行います。

県公連としても各地区公連、九州公民館連合会と十分な連携をとりながら、準備に入りたいと考えていますので、ご協力、よろしくお願いいたします。

●期日：平成21年8月下旬（予定）

大分県教育委員会からのお知らせ

おおいた「親学のすすめ」読本を作成します。

近年、親の規範意識や公共心の低下が指摘され、親自身の在り方を見つめ直すことが求められています。県教育委員会では親自身が規範意識や公共心、地域の大人としての在り方等を考える機会を促すために「おおいた『親学のすすめ』読本」を作成し、県内の学校、公民館等に配布する予定です。

大分県教育委員会のホームページでも公開しますので、ぜひ、ご活用ください。

●問い合わせ 県教育庁生涯学習課 TEL 097-506-5528

編集後記

早いもので、年度末を迎えようとしています。

本年度も機関誌「ひろば」では、公民館の取組の様子などをたくさん掲載することができました。国の施策や県の社会教育委員の答申などを見ると「これからの公民館のあり方」について込められていることがわかります。県公連は、公民館関係職員の方と連携し、公民館がだれもが安心して暮らせる「地域のキーステーション」としての役割をはたせるよう支援してまいります。（安達）

第60回（平成19年度）優良公民館 文部科学大臣表彰

竹田市久住中央公民館

表彰式は、平成19年10月22日に東京にて行われました。今年度は、全国で55の公民館が選ばれました。おめでとうございます。



県公連広報コンクール ～表彰結果のお知らせ～

公立公民館の部

優秀賞

杵築市杵築中央公民館・佐伯市宇目地区公民館・日田市大鶴公民館

優良賞

別府市北部地区公民館・中津市豊田公民館

自治公民館の部

優秀賞

別府市朝見1丁目2区公民館・別府市青山町公民館・日田市玉川三丁目自治公民館

優良賞

別府市浜脇1丁目2区公民館・別府市西野口町公民館

学習資料の部（ポスター・チラシ等含む）

優秀賞

杵築市山香中央公民館

優良賞

別府市北部地区公民館

「ひろば」22号編集委員

豊後高田市中央公民館	指導係長	五 所 明 仁
国東市教育委員会 生涯学習課	係 長	福 井 修
津久見市教育委員会 生涯学習課	主 幹	山 下 俊 雄
佐伯市教育委員会 生涯学習課	副主幹	宮 田 耕 一
豊後大野市教育 委員会緒方支局	主 任	後 藤 祥
玖珠町中央公民館	係 長	吉 野 弥也子

平成20年度 行事予定

6月上旬～下旬

平成20年度大分県公民館
連合会総会
大分県公民館長・主事研修会
大分県公民館新任職員研修会

8月28日(木)～29日(金)

第59回
九州地区公民館研究大会宮
崎大会
場所：宮崎県宮崎市

11月6日(木)～7日(金)

第31回全国公民館研究集会
in こうち
場所：高知県高知市

開催時期等検討中です

第59回
大分県公民館大会